

ISO/TC 61/SC 2(機械的性質)分野の最近の動向

ISO/TC61/SC2は、プラスチックの機械的性質の試験方法に関する規格の制定・改正を担当し、現在までに55の規格が発行され、13の規格開発プロジェクトが進行中である。SC2傘下で活動中の作業部会(WG)を第1表に示す。なお、WG4は開発案件がないため現在休止中であり、WG6及びWG8は、SC9国内委員会が担当しているため、本稿では取り上げない。

第1表 TC61/SC2のWG

WG	コンビナー	タイトル
1	ドイツ	静的力学特性
2	マレーシア	硬度及び表面特性
3	アメリカ	衝撃特性
5	イギリス	温度依存特性
6	イタリア	試験片の寸法
7	韓国	疲労及び破壊靱性
8	アメリカ	データの標記方法

*幹事国：韓国、議長：韓国（2018年11月）

2018年9月24日～28日に、日本のさいたま市において、第67回ISO/TC61年次国際会議が開催され、TC61/SC2関係では各WG会議、及びSC2全体会議が開催された。SC2全体会議には、23か国のPメンバー中、8か国から合計20名が参加し、各WG報告及び討議の後、計16の事項が議決され、TC61全体会議に報告された。本稿では、年次国際会議での議論内容を中心にTC61/SC2の2018年9月時点での動向につき、WG別に概要を報告する。

1. 静的力学特性 (WG 1)

ISO/DIS 178 (曲げ特性の求め方) は、FDIS文書が作成され、SC2事務局に送付された。近々FDIS投票が開始予定である。ISO 527-1 (引張特性の求め方 第1部) は、改正のためのDIS投票を実施中である。ISO 899-2 (クリープ特性の求め方-3点曲げ) は、定期見直しの結果、修正なしで確認された。衝突シミュレーションのための材料試験の標準化に関する検討結果が報告された。PWI 22183 (油圧式高速引張法：日本提案) は、提案国(日本)のPLからの進捗報告及び討議を実施した。技術検討結果が事前回付され、本会議期間内にさらに臨時会議を開催し、さらなる技術討議を実施した。ISO 572-2およびISO 20753は、試験片寸法の違いに関して報告され、次回の改正で修正の方向である。

2. 硬度及び表面特性 (WG 2)

ISO/DTS 19278 (計装化押込硬さ試験方法：日本提案) は、提案されたコメントの内容が討議された結果、修正DTS文書を作成し、メンバー確認後に、TS発行する方向で取り進める。ISO/DIS 20329 (往復平面磨耗試験：日本提案) は、現在DIS投票中であり、承認されればFDISに進行する。また、FDISに向けてのRRT実施の必要性が提案された。ISO 868 (デュロメータによる押込硬さ測定) は定期見直しの結果、改正提案が出された。今後コメントを検討し、改正段階に進める方向である。

3. 衝撃特性 (WG 3)

ISO 180 (アイゾット衝撃強さ) は、改正文書案が作成された。さらに修正の必要な部分の検討を実施する。ISO 179-2 (シャルピー衝撃特性-第2部：計装衝撃) は、改正のためのDIS投票を実施中である。

4. 温度依存特性 (WG 5)

定期見直しの結果、ISO 75-1 (荷重たわみ温度の求め方 第1部) は、DISより改正することとなり、ISO 75-2 (荷重たわみ温度の求め方 第2部) は、修正なしで確認された。ISO 75-3 (荷重たわみ温度の求め方 第3部) は、実験的確認のためのRRT試験につき討議が実施された。SC5/WG8に移管された、ISO 6721-11 (DMAによるTg) は定期見直しの結果が報告された。

5. 疲労及び破壊靱性 (WG 7)

ISO/DIS 17281 (高負荷速度での破壊靱性の求め方) 及びISO/DIS 13856 (破壊靱性の求め方 線形破壊力学アプローチ) は、CSによる文書チェックの後、発行された。ISO/NP 28660 (J-R曲線の求め方) 及びISO/NP 20979 (PEの平面応力衝撃条件の下での破壊靱性の求め方) は、NP2投票でもエキスパート国不足であったが、今回の会議で2か国から追加エキスパート申し出があり、NP投票承認の見込みとなった。ISO/DIS 18485 (柔軟包装用ラミネート層間破壊靱性の求め方—剥離試験) は、開発期限との関係から、SC2でプロジェクトを取り下げ、RRT実施後に再度DIS段階から立ち上げる。ISO/NP 23524 (フィルム、シートの破壊靱性の求め方) は、ISO/NP 21705のプロジェクト取り消し後、新たなプロジェクトとして立ち上げられ、NP投票で承認された。

(以上)